

RPPC メールマガジン 第 818 号

リサイクルポート推進協議会（令和 2 年 4 月 1 日）

■事務局からのお知らせ

先週・今週のお知らせは特にありません。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 高田港湾局長 令和 2 年度施策展開等を語る＝防災・減災、戦略港湾、クルーズ、洋上風力

高田昌行国土交通省港湾局長は 3 月 19 日に開催した専門紙との会見で、令和 2 年度予算案等を踏まえ、港湾における防災・減災対策、国際コンテナ戦略港湾、クルーズ政策、洋上風力発電等に関する今後の施策展開の方向性等について語った。

この中でクルーズ船関連については、2 月頃から水際対策が注目され、対応に追われていた。こうした中、クルーズ船の寄港の多くはキャンセルされ、引き続き厳しい状況が続くと考えられている。

他方、我が国の寄港地としての魅力は高く評価されており、このような部分が今回で変わることはない。今般のクルーズ船に関する対応は今後、政府全体でしっかりと検証されるものと承知しているが、国交省としてもクルーズ船の危機管理について有識者等の意見を聞きながら、一連の対応を総括してクルーズを安心して楽しめる環境を整えるべく、準備を進めている。

また洋上風力発電については、昨年 12 月に長崎県五島市沖の一般海域が「促進区域」として指定され今後、事業者選定の手続きに入っていく。

秋田港・能代港等では既存の港湾施設の改良に係る事業に着手している。また鹿島港、北九州港で新規事業採択時評価の手続きを行っている。令和 2 年度は、港湾機能の強化、また「促進区域」の指定に向けた海域調査等の取組みを加速していく。このほか洋上風力発電産業の育成に向け、経産省と連携しながら、官民が議論する場の構築、同産業に係る中長期ビジョンの形成に向けた取組みを進める。

2. 香川県、令和2年度に高松港の長期構想検討へ、次期港湾計画に反映へ

令和2年度から高松港の長期構想づくりに向けた検討が始まることになった。3月2日に開かれた香川県議会環境建設委員会において、高松港の今後の整備構想について質問があり、県の土木部長が令和2年度に検討を開始することとし、そのための調査費も計上している、と答えた。

土木部長は、高松港におけるフェリーやコンテナ貨物の動向、クルーズ船の寄港状況及び高松港の港湾計画の改訂や一部変更等に係るこれまでの取り組み状況について説明した上で、「高松港を取り巻く社会環境の変化やモーダルシフトの進展に対応するため、平成9年以來の計画改訂が必要と考えており、高松港の長期構想の検討に着手したいと考えている。」と回答した。

3. 沖縄研究会、令和元年度の研究成果をまとめ

沖縄研究会（沖縄開発建設部長経験者有志で構成）は、令和元年度の研究成果として「那覇港コンテナターミナルの機能強化～きらりと光る国際リレートランシップ港に～」をまとめた。

同研究会は沖縄経済が港湾物流の動きによって大きく左右されている実情を踏まえ、那覇港の特質を活かした方策を様々な切り口で研究してきている。令和元年度は外貿と内貿の再編～連携による新港ふ頭地区コンテナターミナルの施設配置案を研究した。9号ふ頭を内貿コンテナターミナルとするほか、外貿の10号ふ頭では既設のストラドルキャリアをトランスファークレーンに転換することで、取扱い能力がアップし那覇港の総合的な競争力強化につながると見ている。

【港湾空港タイムス 03 月 30 日号から編集】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：丸岡 裕人 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

安藤 彰 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。

開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください。